

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192700058		
法人名	株式会社ケアトピック		
事業所名	グループホームきりん		
所在地	岐阜県高山市新宮町791-1		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	令和5年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2192700058-00&SerViCeOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和5年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員がお互いにコミュニケーションを取りながら、入居者様のケアのことや、業務上の課題について対応している。またお誕生日会や敬老の日、ドライブなど、行事を考え実行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は、時々会議に出席して職員と意見を交換している。職員からグループホームの職員としての基礎を固めたいと要望がありミニ勉強会を行っている。管理者は職員同士が教え合いチーム力が向上する様に取り組んでいる。代表者が連絡なしに事業所を訪れて職員の働いている様子を見て声を掛けている。職員から希望があれば、法人内の試験を受けてパートから正職員へ雇用形態を変更することができる。職員は個別に法人のケアアドバイザーに介護の基礎知識を教えてもらったり、悩み事を相談したりすることが出来る。利用前の生活歴や嗜好を把握し、草取りや雑巾作り、食器拭きなど利用者に寄り添い思いを叶えて楽しみながら生活できるように支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:8,9)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は、今、ブラッシュアップを行っている最中ですが、グループホーム理念「ゆくりやさしく自然な笑顔」を心掛けて実践している。	管理者は、新しくなった法人の理念を職員に文章で伝え、会議等で説明している。職員は、やさしい表情や言葉掛けから利用者が自然な笑顔になれるよう心掛けている。理念を実践出来るように試行錯誤しているが職員間で共有することが不十分である。	機会あるごとに理念について職員間で話し合い共有し実践につながるような取り組みを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域の小学校運動会や町内会の行事に訪問出来なくなりましたが、地域の祭りで獅子舞が来てくれるなど徐々にコロナ以前に戻りつつある。	散歩に出掛けた時に近所の人と挨拶を交わしている。農作業を行っている人から野菜をいただいている。地域の祭りの獅子舞と太鼓が事業所を訪れて利用者と交流している。小学校より利用者宛に便りが届き利用者と一緒に読んでいる。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、令和5年度は運営推進会議を開催していないが、今年度運営推進会議を開催する予定。	定期的に書面で会議を開催している。事業所の活動状況や事故報告、現状を送付し意見を返信してもらっている。家族より面会について要望があり居室で面接できるように取り組んでいる。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は、書面により行っているが、コロナの状況により、運営推進会議を開催する予定。	要介護認定の申請や事故報告書を市に提出に行った時に担当者と情報を交換している。市の担当者が利用者の米寿のお祝いを持って事業所に来所している。市主催の講演会や事例検討会に職員が出席して情報を交換することもある。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講師による身体拘束の法定研修を社内実施、身体拘束の共通理解を深め、日々のケアに生かしている。	契約時に事業所の方針を家族に説明している。法人のケアアドバイザーが勉強会を行ったり、オンラインで外部研修を受けたりしている。管理者は、会議において具体的な事例を挙げて職員間で話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師による虐待防止の法定研修を社内実施、虐待防止に努めている。	外部講師を招いて研修会を行い虐待防止について正しく理解できるように取り組んでいる。管理者は職員間で協力関係が構築できるように話し合っている。会議で具体的な事例について話し合い、言葉掛けや対応方法などを職員に周知している。	

グループホームきりん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての研修の実施にて共通理解を深めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、管理者、ケアマネジャー2人で同席し、ご家族様と契約を行っている。その際、ご家族様の疑問点についても説明を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍にて書面での運営推進会議の開催ではあるが、あらかじめ意見を頂き、参考にさせて頂いている。	家族が面会に来所した時に利用者の状況を伝えて意見や要望を聞いている。遠方の家族には電話で状況を伝えて聞いている。家族から歩かせて欲しいと言われて職員と一緒に散歩に出掛けている。家族から要望があり草取りや編み物を継続できるように取り組んでいる。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に相談して決めている。また会議やショートミーティングで出た意見や雑談の中でも都度、意見を取り入れ、運営に生かしている。	代表者は、時々会議に出席して職員と意見を交換している。資格を持っていない職員からグループホームの職員としての基礎を固めたいと要望がありミニ勉強会を行っている。管理者は、職員同士で教え合うことでチーム力が向上する様に取り組んでいる。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	努力や実績などを評価し、年2回の賞与に反映させたり、きりん独自のキャリアパスを設け、実績などで等級が上がる仕組みや、勤務状況をリアルタイムで把握し、職員の健康状況の把握や職員ストレスチェックなども行っている。	代表者が連絡なしに事業所を訪れて職員の働いている様子を見て声を掛けている。管理者は家庭の事情を把握して勤務表を作成している。急に用事が出来た時でも休むことが出来る。職員から希望があれば、法人内の試験を受けてパートから正職員へ雇用形態を変更することができる。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	虐待防止委員会、リスクマネジメント委員会、医療衛生委員会などの委員会を設置し、各委員会による法定研修の定期的な開催や、新人職員と管理者との感想とフィードバックを設けている。	職員が、資格を取得した場合は、受講料等の費用を法人が負担している。研修会は勤務として受講できるように配慮している。職員は個別に法人のケアアドバイザーに介護の基礎知識を教えてもらったり、悩み事を相談したりすることが出来る。	

グループホームきりん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の講師にオンラインにて勉強会を定期的開催して頂いております。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御飯は一緒に席で召し上がったたり、一緒に腰かけて話をしたり、一緒に物事に取り組むなど、共に暮らす関係を築くよう努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に入居者様アンケートを行い、生活の満足度やサービスについて意見を聞いて、要望があれば、サービスに繋げている。またケアプランでも本人様の意向をケアプランに反映している。	食事後の利用者同士の会話から利用者の思いや意向を拾い上げている。入浴時や夜間など1対1となった時に思いを聞くこともある。利用者の思いを叶えられるように職員間で話し合いながら取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的サービス担当者会議を開催し、ご意見やご要望をケアプランに反映している。	利用者の担当職員が定期的にモニタリングを行っている。計画作成担当者はモニタリングや他の職員から意見を聞いて課題を抽出している。家族の来所時や電話にて説明し意向を聞いて計画を作成している。状態の変化に伴い現状に即した計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や気づきについて個別記録に記入し、情報を共有している。さらには、実践や介護計画の見直しも行っている。	会議や申し送りに利用者の思いを伝えて職員間で話し合っている。「パチンコに行きたい」「家に帰りたい」など利用者の言葉を生活記録に記入しているが、ケアの実践や職員の気づきなどの記録が不十分であり見直しにつながっていない。	介護計画の実践の状況や職員の気づきを個別に記録して職員間で共有し、介護計画の見直しにつなげられるような工夫を期待する。
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接するきりんの施設に旦那様が入居されているが、「主人に会いたい。」と言われたので、職員付き添いで、旦那様に会いに行った。	医療機関の受診に家族の都合が悪い時は職員が同行し結果を報告している。利用者より仏壇に手を合わせたいと要望があり家族に相談し利用者や家族、職員と一緒に出掛けている。弟に会いたいと言われたため家族に相談して面会に来てもらっている。	

グループホームきりん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との繋がりが、コロナ禍で閉ざされているが、少しずつ地域と繋っていきたい。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族の意向に沿っている。きりん協力医との往診も行い、医療連携を行っている。	従前のかかりつけ医への受診は家族が同行している。家族が同行する場合は、記録を印刷して渡して結果を確認している。急病の場合は職員が受診に同行して、結果を家族に報告している。利用者の状態により家族から要望があった場合は、職員が家族に付き添って受診している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際、入居者の情報提供書の提出や、定期的に電話にて入院中の様子を確認している。	入院した時は既往歴や薬など書面で情報を提供している。入院時の様子は家族や医療機関に電話で確認している。退院が決まった時は職員が退院カンファレンスに参加して情報交換している。予定より退院が延長になる場合は事業所から医療機関に確認している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向を確認したり、定期的に書面にて確認を取るようになっている。今まで2名の看取りを行う。	契約時に事業所の方針を家族に説明して理解を得ている。状態の変化に伴い早い段階から家族に相談して意向を確認している。重度化し事業所での生活が難しくなった場合は、事業所の現状や利用者の状態について家族と相談して、次の住まいにつながるよう支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年、消防職員をお招きし、AEDや応急処置の方法をレクチャーして頂く予定。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。また今年も、隣接する施設と合同で避難訓練を行う。また委員会にて防災避難計画を作成している。	併設事業所との合同訓練を含めて年2回訓練を実施している。水や食糧、懐中電灯など備蓄している。各居室前に利用者用のヘルメットを設置しているが、夜間想定訓練を実施していない。また、地域住民との協力体制が構築できていない。	運営推進会議や関係者に相談し、夜間を想定した訓練の実施や地域住民の訓練への協力が得られるような取り組みを期待する。

グループホームきりん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方の話を聞くよう努めており、トイレの際は、その場を少し離れるなど、プライバシーに配慮している。	トイレへの誘導時は他の利用者には分からないように声を掛けている。排泄時はトイレ内にいないように心掛けている。入浴は、誘導から脱衣、入浴と一人の職員が対応している。同性介助を希望する場合は対応している。職員は笑顔でやさしく声を掛けることを心掛けている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の言葉を遮らずに対応し、思いを聞いている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「散歩がしたい。」と言われれば、散歩を行っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事で、胡麻すりをして頂きました。また食事の準備や片付けも一緒に行っている。	利用者は台拭きや盛り付け、食器拭きを手伝っている。ちらし寿司や朴葉寿司、ホットケーキ、たこ焼きを利用者と一緒に作っている。玄関先のプランターで野菜や果実を育て食卓に出している。職員と一緒に食卓を囲み会話しながら食事を楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事量にしている。以前入居されていた方で、噛む力が弱い方には、刻みにしたりし、その方に合った形態にしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを入居者様に行っている。時々、遠慮される方に関しては、時間を置いたり、職員が代わり、声掛けを行うなどの対応をしている。	毎食後、利用者の状態に合わせて声を掛けて口腔ケアを行っている。出来ない方には職員が口腔ケアを介助している。入歯は毎晩職員が預かり消毒を行っている。嚥下認定看護師が実際に食べている利用者を確認し口腔内の状態を確認して職員に伝えている。	

グループホームきりん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声掛けを行い、失敗のないようにしている。また排便間隔なども書面に記入している。またセンナ茶や水分を促すなど、排便コントロールを行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は固定されていますが、「入りたくない。」と言われた際は、翌日にするなど、臨機応変に対応している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「昼寝がしたい。」と言われれば、昼寝をしたり、定期的な休息の場を設けている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用中の変化などを記録し、主治医に報告している。	薬に変更があれば申し送りに記入し目印をつけて分かりやすいように工夫している。記録に処方箋を綴じて職員に周知している。看護職員より薬の注意点を職員に伝えている。服薬は日付と名前、朝昼夜を確認し、飲み終わるまで確認している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	雑巾縫いなどの役割を持って頂いたり、外出支援や、散歩に行く、等の支援を行っている。	利用者の生活歴や嗜好を把握し裁縫や草むしり、料理の下ごしらえなどを手伝っている。歌の好きな方には歌を歌ってもらったり、花の好きな方には花を生けて飾ったり利用前から行っていたことを継続できるように支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やドライブ外出など行っている。またご家族様の協力を頂きながら、家に行き、仏壇参りなどを行いました。	天気の良い日に利用者と散歩に出掛けている。窓から外を眺めている利用者に声を掛けて散歩に出掛けることもある。利用者の思いを家族に伝え協力を得て帰宅や外食、買い物などに出掛けている。桜や紅葉、リンゴ狩りなどドライブに出掛けている。	

グループホームきりん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出がなく、お金を所持していません。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話が掛かってきた際は、本人様に電話を取り次いだり、毎月ここでの生活の様子を写真に納めて、ご家族に送っているが、入居者の方にご家族へのメッセージを書いて送っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房のこまめな管理や、電気の使い方などこまめに調整している。また入居者の方と一緒に作成した作品をリビングや廊下に掲示している。	廊下には利用者と職員が一緒に作った作品や利用者が書いた色紙に書いた詩や絵を飾り会話のキッカケとなっている。職員は、利用者を確認しながら温度を調整している。利用者がゆったりと過ごせるようにソファを配置し、気の合う利用者同士と一緒に過ごせるように席の配置を配慮している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファ、各居室など好きな場所に過ごして頂けるよう努めている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物やご家族の写真など持参している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の分からない方には、名前を掲示したり、トイレが分からない方には、白線を敷いたり、入居者の方が混乱しない作りになっている。		